

# ほっこりだより

東向日キリスト教会

京都府向日市森本町下森本6-5

Tel: 075 (931) 5934

http://www.h-mukou-ch.jp/

第56号 2011年3月6日 発行

## 手放してこそつかめるもの

手放さなくて悩む現代

物が豊かに溢れています。購買意欲をそそるため、安いもの、良いものを店に出します。私達は、つい手元のあっても誘惑されて買ってしまう。その結果、家の中には衣類や家具など品物で一杯になります。また、古いものを捨てられないのです。

携帯電話は驚くほどに普及しました。片時も手放せないので、便利な道具であります。しかし、どれだけ幸せにさせてくれるのでしょうか。皆が持っている、持っていないと取り残されるようで不安になります。

ある人が、手のひらを一度広げ、握っているものを手放してみたら、もっと素晴らしいものが落ちてくると言ったそうです。

手放さなくてはならない時がある

若い時、元気な時は欲しい物を手に入れることは可能でしょう。しかし、年をいっていく、病気になる時、これまで後生大事と握っていた仕事や趣味もできなくなります。

定年退職した時、名刺を手放し、会社の関わりから切り離されるのです。特に男性は生きる目標を失うほど落胆します。

また、愛する家族ともやがて別れる時が来ます。頭も体力も衰えてきますから、これまで楽しんできたことも一つずつ手放さねばなりません。

手放してこそつかめるもの

しかしながら、手放すものが増える時に、新しい発見をするのではないのでしょうか。また、大切なものが見えてくるのです。世話や介護を受ける時、人の親切が身にしみてきます。また、時間は無限ではなく限られているので、大切に使う気持ちになります。食べる、見る、話す、人との出会いも当たり前ではなく、感謝する思いになります。

生きて行くために大切なことが見えてくるのです。あれもこれも必要ではなく一人では生きられないことに気付くでしょう。

見えるものではなく、見えないものに

手を放す年齢になったとき、人生の大切なものが見えてくると言っては言い過ぎでしょうか。

先日、京都駅のホテルで講演会がありました。著名な講師が「人は六十歳を過ぎたら、何を止めて、何を省くか決めること、整理して行くことが大切である。そして、自分の楽しみは何かを考えて行くこと」と話されました。

握っているものをもう一度確かめ、生涯、大切なものをつかんでみたいものです。

「見えるものではなく、見えないものこそ、目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです」聖書

## 俳句

北国の山を這う霧雪近し  
ドア開けてあまりに静か冬の底  
冬の虫しばらく休んでおきなさい

古都葉

## 短歌

産後病み共に遊ぶもできぬのに

あの時くれた笑顔悲しき

クリームシチュウの中でホウレン草強く

色も香りも味も緑に 古都葉

## 詩 「友達」

互いに愛し合いなさい

私達一人ではない

いつもそばに友達がいる

助け合っていけるよう

悲しい時は支えあい

嬉しい時は喜び合おう

こんな素敵な友人がいる

イエスさまありがとう

Y子

## 教会案内図です



